

加工には入る前の【注意事項】

染め替え不可能な素材・注意点

- ・ポリエステル 100%、アセテート(トリアセテート・ジアセテート)、アクリル・ナイロン素材が含まれているもの、革類、素材が不明なもの。(化学繊維には色がほとんど入りません)
- ・ダウンジャケット。裏地がついているコート類(破れる危険性があり縮みにより型崩れします)
- ・革素材が使用されているもの。ファーなどのが付いてあるもの。
- ・レーヨンは水や熱に弱く収縮率が大きい傾向があります。
- ・絹や羊毛は縮みによる型崩れが発生しやすい素材です。

縫製糸について

縫製糸や刺繍糸はポリエステルが使用させている場合が多く、その部分だけ色が入らなかったり、色合いが変わってきます。またはっきりと縫製糸がわかるためステッチが目立ちます。

付属品について

ジーンズやパンツについてあるパッチは染めると傷んでしまいます。革のパッチは縮みます。ボタンなども弱っているものは外れたり破損する恐れがあります。またボタンの種類によっては染まる場合と染まらない場合があります。ワッペンなどの付属品も外れる可能性があります。また不織布や接着芯などが生地には貼りつけられているものは接着剤が熱で溶けて部分的に剥がれる場合があります。

色落ちについて

染色の後にはすすぎと色止めをおこないますが、色落ちは完全に防ぐことはできませんので洗濯は単独で洗うことをお勧めいたします。(白いものと洗うことはお避け下さい)

色ムラについて

目には見えないシミや何らかの薬剤などが付着している場合そこだけムラになったりシミ浮き出て着たりする可能性があります。

混紡、交織のものはその混率によって色ムラがでる可能性があります。

色が部分的に褪せている場合、全体が均一に染まらない場合があります。

漂白剤による色抜けや部分的な色抜けの場合は色の違いがでる可能性があります。また、特別な加工が施してある場合、色が想定した色目にならなかったり、染め上がりがムラになってしまう場合があります。

縮みや型崩れについて

どのような素材でも縮みや型崩れが生じる可能性があります。どのくらい縮まるかは事前に判断できません。

ジャケットやコート、セーターなどは型崩れが目立ちます。着用出来なくなる可能性もございます。

また裏地の付いているものは縮率が違うので型崩れが発生します。

特にドライ洗濯の表示がされているものは水で洗っていませんので縮み幅が大きいです。また新品の衣類も風合いの変化と縮みが出やすい傾向があります。

染め替えする前のすべての素材に共通する注意事項

染め替えは、高温で衣類を動かしながら染めていきます。衣類に大きな負荷がかかります。

生地の傷みや破損、型崩れ、引きつれ、付属品の腐食・劣化、染める前には見えなかったシミが出てくるなど、染める前には予測できないことが起こる可能性がございます。

染め替えのやり直しは原則受け付けておりません。また、染める前に戻すことも不可能です。万が一障害が発生した場合、弊社では責任を負いかねます。

承りに際し以上の確認事項をご確認いただきご理解いただきましたら作業に入らせていただきます。

| | | |
|-----------------------------|--|--|
| 承りご署名 | | |
| 年 月 日 | | |
| ご署名 | | |

